



虎の門病院歯科

山田 敏元
先生



虎の門病院歯科

田島 賢一
先生

今回のアイテム

オブチダム

新しいラバーダムシステム

約40年前に、日本の歯科臨床にコンポジットレジンが導入され、リン酸を用いた酸エッチング法、さらに総山によるトータルエッチング法、最近ではセルフエッチングボンディング材の開発など、コンポジットレ

ジンそのものも化学重合方式から、可視光線重合方式への変更に相俟って、近年極めて審美的な接着性レジン修復が可能となっている。

特にボンディング材の開発・改良においては、本邦における努力の資するところが大きい。コンポジットレジンにおいては、欧米の先進国にまだ一歩譲っている。

中でもサイブロン・デンタル社は、審美修復用コンポジットレジンの開発において、棋界の先陣を切って多くの製品を生み出し、世界の臨床の現場において広く用いられている。

最近においても、ハーキュライト X R V、プロデューサー、ポイント

ト4、プレミスなど枚挙に暇がない。

いずれもそれぞれ優れた製品であり、各々特徴を有しているが、特に自費診療の分野における審美修復に於いて多用されている。

これ以外にも研磨材、修復補助用具の開発にも熱心であり、最近ではとても使い勝手の良いラバーダムシステムが、オブチダム前歯用、白歯用として発売された。

図に示す様に標準的な歯牙の位置が突起状になっており、患歯に当たる位置の突起部をハサミで切り取るだけでよく、誠に便利である。



図1 立体的なオブチダムと専用の樹脂製フレーム



1. 患歯の状態



2. オブチダム装着



3. 窩洞形成完了



4. 充填、研磨完了